



題字 井口 文章
再刊 第422号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2023

みんな AIでつくる
錦城高校新聞

一面：定期テストの復習法は？
生物部がネッシーを発見
二面：チャットGPTについて解説！
先生から編集委員の声まで

効果的な期末テストの復習方法まとめ

成績向上のための戦略

定期テストの復習法の要点は、ノートやテキストの復習、過去問解答、グループ学習、補足情報の収集、定期的な復習です。計画的な学習と自信を持って臨みましょう。



知識の宝庫：教科書の群れ

英語の期末テストに向けた効果的な復習方法を紹介します。まずは英文法の復習から始めましょう。基本的なルールや誤りの発生しやすいポイントに注意し、参考書や問題集で練習を重ねましょう。次にリーディングのスキルを向上させるため、過去のテストや模擬試験の読解問題に取り組み、文章の意味や主旨を理解しましょう。また、リスニングの能力を高めるために英語の音声資源やオンライン教材を利用し、ネイティブスピーカーの発音やスピードに慣れましょう。スピーキングの練習では英会話クラスやスピーキングパートナーとの会話を通じてコミュニケーション能力を向上させ、日常会話やテストで出題されるフレーズや表現を積極的に練習しましょう。最後に、ライティングのスキルを磨くためにエッセイやレポートの書き方を学び、自分の意見や主張を明確に伝える練習を行います。英語の期末テストの復習では文法理解とコミュニケーション力の両方に焦点を当て、継続的な努力を心掛けてみましょう。

参考書や問題集を使い、幅広い演習を行い文章読解力や記述力を向上させます。クラウドサービスや教師とのディスカッションや質問も重要です。時間管理とリラクゼーションも忘れずに行いましょう。計画的かつ継続的な復習を心掛け、自信を持って臨みましょう。

基礎の確認と過去問の活用
数学の期末テストの効果的な復習方法を紹介します。授業ノートや教科書の復習で基礎を確認し、過去のテストや演習問題に取り組み、出題傾向を把握しましょう。参考書や問題集を使い幅広い演習を行い、解答解説を理解し、疑問点を解消し、問題解決や議論を通じて理解を深めましょう。時間管理と自己管理を徹底するためにエッセイやレポートの

未知の淡水生物ネッシーの発見と生物部の研究

ネッシーの発見と注目度

地元の高校の生物部がネッシーと名付けられた未知の淡水生物を発見。ネッシーは大型の淡水生物であり、研究者たちの注目を集めています。

生物部はネッシーの目撃と観測装置の設置を通じて研究を進め、ネッシーの実在性を科学的に証明しようとしています。

地元のコミュニティはネッシーを観光資源として活用する



生命の拠点：生物部の建物

ネッシーの発見は生物部の生徒たちの成果であり、地域の誇りとなっています。ネッシーの存在は地域の自然環境や生物多様性への関心を高め、科学的な知識と技術の発展にも寄与するかもしれません。

生物部はネッシーの謎解きを続け、その成果を広く発信し観光や地域振興に貢献することを目指しています。(笑)

錦城高校新聞委員会へ参加しませんか？

みなさん、こんにちは！錦城高校の新聞委員会です。我々は学校内外の情報をお届けし、学校の魅力を広めるために日々活動しています。そして、あなたの力を借りてさらに多くの人々に届けたいと考えています。

新聞委員会では、一緒に活動してくれる仲間を募集しています！新聞制作の楽しさや情報発信の喜びを一緒に体験しませんか？

- 文章を書くのが得意な方、表現力を磨きたい方、大歓迎です！
- 写真を撮るのが好きな方、映像制作に興味のある方、ぜひ参加してください！
- イベントやスポーツに詳しい方、インタビューやレポートが得意な方、新聞の記事に力を貸してください！

(笑)

小説「運命の出会い」

高校生の夏希は、普通の子供高生としての日々を過ごしていた。彼女は明るくて健康的な笑顔を持ち、友達と一緒に楽しい時間を過ごすことが大好きだった。

ある日、夏希は学校の図書館で勉強している最中に、隣の席に座っていた男子生徒の目が気になった。彼の名前は大地で、少しクールで落ち着いた雰囲気を持っていた。時間が経つにつれ、夏希は大地に興味を持つようになった。彼の本を読む真剣な姿や、時折見せる優しい笑顔に心惹かれていった。そして、運命的な出会いを感じた。

ある日の放課後、夏希は大地と偶然にも同じ部活動に入るようになった。二人は一緒に練習をする中で、お互いの存在が特別なものとなっていった。彼らの関係は徐々に進展し、友情から恋愛へと変わっていった。夏希は大地との時間を大切に、一緒に過ごすことで新たな感情や経験を積んでいった。しかし、二人の関係には困難も待ち受けていた。学業の忙しさや部活動の練習に追われる日々で、彼らは時間を共有することが難しくなっていった。夏希は悩みながらも、大地との絆を守るために努力し続けた。結局、夏希と大地は時間の制約にもかかわらず、お互いの存在を大切にし続けた。彼らの愛は試練を乗り越え、より強固なものとなっていった。卒業式の日、夏希と大地は互いに感謝の気持ちを伝え合った。彼らはそれぞれの道を進むことになったが、心の中にはずっと特別な存在として残り続けることだろう。

夏希と大地の恋は、青春の輝きを放つ一瞬の出会いから始まり、互いの成長と絆を通じて成熟していった。彼らはお互いにとって、運命の出会いであったのだった。(笑)

むらさき草

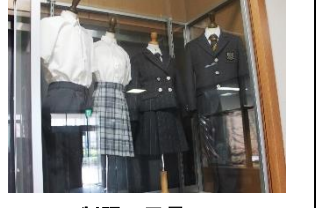
私たちの人生は、大きな目標や夢の達成だけではなく、日常の小さな瞬間から成り立っている。時には、私たちが喜びや幸せを見逃してしまいがちだ。しかし、実際には日常的なことこそ真の充実感や幸福が隠れているのである。例えば、朝日が窓から差し込んでくる光景、香り高いコーヒーの一口、心地よい音楽に耳を傾けること。これらの些細な瞬間は、私たちに穏やかな安心感や喜びをもたらすのである。しかし、忙しすぎる日常やストレスの中で、これらの瞬間を見落としてしまうことがある。▼日常の小さな瞬間にこそ幸せが眠っている。▼さらに、日常の小さな瞬間に感謝の気持ちを抱くことは、私たちの心を豊かにし、ポジティブな思考を促進するのである。感謝の気持ちを持つことで、周囲の人々への思いやりや配慮が生まれ、人間関係がより深まるのである。▼日常の中に感謝の心を持ち続けることで、喜びや幸せがさらに増幅されるのである。▼また、日常的なことに集中することは、マインドフルネスの実践とも関連している。目の前の瞬間に全集中意識を向けず、過去や未来を意味するのである。▼マインドフルネスを実践することで、私たちは現在に生きていることの大切さを再認識し、より充実した人生を築くことができるのである。▼日常の小さな喜びを見逃さず受け入れることは、私たちの心を豊かにし、幸福感を高めることにつながる。大きな目標や夢の追求も重要だが、同時に、日常の小さな瞬間を大切にすることこそが、充実した人生を築く鍵である。心を開き、感謝の気持ちを持ちながら、日常の中に眠る幸せを見つけてよう。(笑)

多様性と個人表現への影響

最近、制服に関する概念が大きく変わりつつあります。かつては、学校や職場においては一律の制服が定められ、その服装によって個性を表現することは難しかったですが、近年では制服の自由化が進んでいます。この自由化の動きは、様々な要素から影響を受けています。まず、社会の多様性と個人の自己表現への重要性が認識されるようになりました。個人のアイデンティティやスタイルを尊重することが重視され、制服がそれを妨げる要因となることが指摘されました。これにより、学校や職場においては制服の着用が必須ではなくなり、自由な服装選択が許容されるようになったのです。

また、グローバル化の進展も自由化の要因となりました。国際的な交流が盛んになる中で、異なる文化や価値観に触れる機会が増えました。これにより、様々なスタイルや服装が受け入れられるようになり、一律の制服が制約となる場面が少なくなりました。個々の個性を尊重し、多様性を受け入れる社会の姿勢が制服の自由化を後押ししています。

さらに、デジタルテクノロジーの進歩も自由化の一因となっています。オンライン教育やテレワークの普及により、学校や職場といった場所に固定された制服の必要性が薄れました。個人の存在や能力はオンライン空間での発信や成果によって評価されることが増えたため、外見や服装への過度な重要視は減少しました。しかしながら、制服の自由化にはいくつかの議論や懸念も存在します。一部では、服装の自由が乱れや秩序の喪失をもたらす可能性が指摘されています。また、経済的な格差が服装に反映されることで、さらなる社会的な格差が広がることも懸念されています。制服の自由化は、社会の変化と共に進む流れです。個人の多様性や自己表現の尊重、グローバルな視野、デジタル化の進展などが要因となっています。一方で、議論や懸念も存在することを忘れず、社会全体でバランスを考えながら自由化の進展を進めることが求められます。(笑)



制服の風景

気付きましたか？

表の紙面に疑問を抱いた方はいますか？
実は、表の紙面の記事はすべてチャットGPTが書きました！この裏の紙面ではそのチャットGPTについて特集を組んでお届けします！

身近に発見！チャットGPT利用者



今回、一足早くチャットGPTを授業内で使用した門前先生に話を聞いた。門前先生

AIの可能性を見出す

今回、一足早くチャットGPTを授業内で使用した門前先生に話を聞いた。門前先生は「チャットGPTを使って英語の小説を創作した」という。創作の感想を聞くと、ジャンルやキーワードを指定するだけで完成するので楽なだけでなく、クオリティも高く驚いたと語る。今後授業で使っていく予定について尋ねると、英文文の構成を学ぶにはとてもいい手段だと思うので積極的に使っていきたいと答えてくれた。

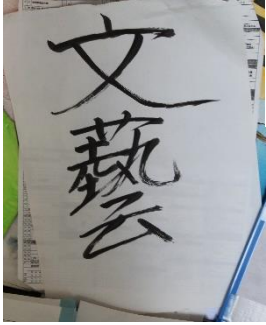
チャットGPTとは

チャットGPTとは、(Generative Pre-trained Transformer)の略であり、ユーザーが入力した質問に対して人間のように自然な対話形式でAIが答えるチャットサービスである。2015年に設立されたアメリカのAIの研究開発機関「OpenAI」により開発された。昨年11月に無料公開してから、2か月足らずで利用者は一億人を超えたとされる。ただし回答が必ずしも正しいとは限らない。利用が先行している海外では、教育現場において警戒感が高まっている。また複数の海外メディアはでいくニュースなどに利用される可能性や、サイバー攻撃にも悪用される恐れがあると指摘する。さらに、ネット情報の信頼性を評価するアメリカ企業は、誤情報をもとにチャットGPTに文章を作成させたところ約80%に誤情報を含んだ文章が返ってきたと公表した。しかし、様々な専門家は「数年後、人間より劣っているとは考えにくい」として警鐘を鳴らしている。(読売新聞 2023年2月3日から引用) (珠)

チャット Generative Pre-trained Transformer

対話型の
生成可能な
事前学習済みの
文章生成変換器

文芸部から見るAI小説



文芸部に聞いてみた！

1面にある高校生の恋物語『運命の出会い』を読んで、文芸部部長の小池優貴さん(21)は「言葉遣いはとても面白いですが、このままだと」

誌等に乗せるのは難しいと思います」と語る。小池さんは、小説は登場人物が感じたことを追体験するものだと考えているそうで、チャットGPTによって書かれた文章は説明のみが述べられているような文章が多く、読者の解釈が入り込む余地がないと感じたそうだ。また、チャットGPTの書いた文章は要約が多く、ウィキペディアに載っているものに近いと小池さんは話してく

AIを宿題で使ってもいいですか？

校長「メディアリテラシーを身につけて、AIを活用することで、新しい利用の仕方次第な面もある。チャットGPTなどのAIは、今や誰にでも使えてとても便利なものです。だから一度AIに頼ると、麻痺してしまうものにもなり得る。AIの進歩には期待しているが、学校という教育の場でそれを使うことについては「使い方による」そうだ。例えば読書感想文をAIに書いてもらうことは簡単だが、それを続けても自分の脳は一向に活性化しない。一方、

#チャットGPTで記事を書いてみた

今回表面に掲載されている『未知の淡水生物ネッシーの発見と生物部の研究』の記事が、どのように作られたかというをご紹介します。順序としては①チャットGPTに書いてほしい内容と文字数を伝える ②直してほしい内容をチャットGPTに伝えて修正する 結論からいうと、二度と操作したくないと思いました…

①チャットGPTに書いてほしい内容と文章を伝える
まず、チャットGPTに要望を伝えます。今回は「生物部でネッシーが生まれたことについての記事を500字で書いてください」と伝えます。そうすると左の写真の通り指示した内容にほぼ沿って記事を書いてくれます。しかし、よく見ると内容が「ネッシーが生まれた」ということではなく「発見」にすり替わっています。

②直してほしい内容をチャットGPTに伝えて修正する
今回の記事は500字ではなく250字だったので「250字に直してください」と伝えます。(左図参照)そしてチャットGPTが書いた文章をもう一度こちらから送り直し、そのうえで「これの題名をつけてください」と送ります。ですます調にするなどの調整もここでを行います。

①指示通り記事を作成



豆知識
表の紙面を作るのに試行錯誤すること2週間弱！人間の納得のいく文を作らせるというのは本当に難しいです。

編集部員の意見は？

チャットGPTを用いて作った1面を見て、編集部員内で座談会を行った。紙面全体の感想や、個々の記事の感想も話し合い、チャットGPTについて話し合った。(2)の前の記事は漢字一文字は署名です) 司会・紫 1面を見て感じたことは？ 紫 「特に悪くないと思うけど、いつもの新聞と比べて違和感を感じるからそれに気づく人はいると思うよ」 蘭 「なんだか見出しのセンスない感じがしますね笑」 白 「私たちが違和感を感じたのはそこじゃないかな？」 珠 「みんな、この紙面が配られたらどう思う？」 紫 「私だったら読まないな」 布 「見出しも小見出しも、簡潔さで感じないですよ」 珠 「確かに私には見出しも小見出しも『見たい』って思わせるようなものを作ろうとしてるよね」 紫 「じゃあ、左下にあるコラムのむらさき草で何か感じたことはある？」 紫 「専門用語が多い気がするよ」 蘭 「起承転結がはっきりしてますよ」 紫 「この記事はチャットGPTに『高校生の恋愛小説を500字で書いてください』って頼んで作ったんだ」 蘭 「でも、なんでこんな小説になったのか、一番わからないですね」 紫 「あんなに面白くない記事はないですね」 紫 「文芸部の部長も言っているけど、説明的な文章だよ」 珠 「チャットGPTってもしかしたら創作系の文章が苦手なのかもね」 紫 「左上のネッシーの記事について？」 蘭 「編集部員が使わないような言葉遣いだよ」 紫 「努力と情熱に期待を寄せつつあんなに使わない表紙だよ笑」 紫 「あとは、社会的な視点から物事を見てると思う」 紫 「じゃあ最後に、紙面の1番最初の勉強法の記事について？」 布 「記事のまとめが言っていることがほぼ同じで、くどい感じがしますよ」 珠 「見出しだけじゃなく文末も錦城高校新聞とは違うかんじがあるね」 蘭 「編集部員が書くことはいくつかある記事ですよ」 紫 「それにチャットGPTが言っていることって、大体自分たちが知っていることだよ」 白 「わかる。これまでいろいろな先生たちに言われてきたことばかりだよ」 珠 「うーん、知識はたくさんあるんだなってことが伝わってくるね」 紫 「その中で、一番私たちが書いた文章に近いのはむらさき草だよ」 紫 「ということは、チャットGPTはほとんどある情報の要約が得意なのかも」 紫 「そうだね。じゃあ、チャットGPTは錦城高校新聞に適していると思う？」 布 「僕もそう思います」 紫 「今回の座談会でチャットGPTは知識が多く、文章の要約や説明が得意だということが分かった。しかし、創作には向いていない、感情のこもったものを作るのは苦手なのではないかというところも分かった。今回新聞委員会でチャットGPTは紙面では使わないという結論に至った。なぜなら、チャットGPTが書く文章には面白みがなく、チャットGPTは錦城高校新聞に適していないと感じたからだ。特に、私たちの強みは見出しのような、人間だからこそ思いつくことが出来る『見たい』と思わせるような紙面づくりにあると再確認した。これからの強みを生かして様々な新聞を作っていこうと思う。」 これからも『見たい』と思わせられるような新聞を作っていきますので皆様の応援よろしくお願いします！ (紫)



上手く付き合っていくってほしいです

「チャットGPTなどのAIは、今や誰にでも使えてとても便利なものです。だから一度AIに頼ると、麻痺してしまうものにもなり得る。AIの進歩には期待しているが、学校という教育の場でそれを使うことについては「使い方による」そうだ。例えば読書感想文をAIに書いてもらうことは簡単だが、それを続けても自分の脳は一向に活性化しない。一方、

「チャットGPTなどのAIは、今や誰にでも使えてとても便利なものです。だから一度AIに頼ると、麻痺してしまうものにもなり得る。AIの進歩には期待しているが、学校という教育の場でそれを使うことについては「使い方による」そうだ。例えば読書感想文をAIに書いてもらうことは簡単だが、それを続けても自分の脳は一向に活性化しない。一方、